広報
さめがわ

第113号
昭和38年
2月1日発行

編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町　佐藤印刷所



若いこころ

真実は
どこまでも探究したい
正しいことは
どうあつても貫きたい
清らかなものは
どこまでもまもりたい
これが若人のこころ——
夢はこわさずに。
まもり育てたい若い心



これからは一人前の社会人だ

身心ともにすこやかで、豊かな教養を身につけた——と石田村長から折紙をつけられ、これから大人の仲間入りをする成人たち。今年は男女合せて八十九名。昭和十七年戦争のさ中に生れ、生き難い時代に育つた暗さなどミジンもなく、美しく朗らかで、しかもたくましい健康の持ちぬしである若人たちだ。

公明選挙のモデルに
鮫川村を指定

4月に行なわれる地方選挙を前にして県では公明選挙推進のモデル地区に鮫川村を指定しました。

全県下市町村のお手本になるような、公正で明朗な選挙を推進しましよう。

選挙は私たちの村、私たちの県をより発展させ、住民の生活をより向上させるために行なわれるのです。

中正な立場で考え、正しく判断し、選挙権は正しくこれを行使しましよう。

春遠からじ

二月はさむい月です。最低気温が零下一〇度を下ることもあるでしよう。

しかし節分をすぎると、日はめつきり長くなるし、陽ざしの明るさは春の訪れを思わせます。

農家ではこの年の営農設計が初まり、役場や各種団体では予算編成が進められる。

学校は修卒業を前にして、一年のしめくくりと進学指導に忙しい。

今年こそは——の意気込みは、春を待つ心とともにたのしいものです。

寒く、空気の乾く季節です。感冒と火災にはくれぐれも注意しましよう。



経営規模を大きく

経営規模の小さい農業では生産面で機械化を遅らせ、多資多労となり、経営面で収益や採算の悪い自給的農業となっている。

これからの農業ではどうしても経営規模の拡大が必要となってくる。

農業構造改善事業でも、この経営規模の拡大が大きな事業の一つです。

ここで小さな規模より大きな規模の農家ほど、一日当りの労働報酬が多いことの証明に次の表をごらん下さい。

米作家族労働報酬

区分（平均反別）	反収	労働時間	当反家族労働報酬	1日当同日報酬
	反	kg	時	千円	円
平均	(10.7)	407	147	18.6	1.210
5反未	(4.3)	393	185	17.1	810
5～1町	(7.4)	376	159	16.1	990
1～1.5	(11.9)	388	161	16.6	1.010
1.5～2	(17.5)	449	134	21.9	1.560
2町以上	(22.1)	427	155	20.9	1.730

酪農の規模別家族労働報酬

頭数	1	2	3	4	5	6
乳代(千円)	115	231	346	462	577	693
総費用 (〃)	140	248	353	457	563	676
純収益 (〃)	▲ 19	0	17	44	61	70
労働報酬 (〃)	13	45	71	106	133	151
労働時間 (時)	700	1.000	1.200	1.400	1.600	1.800
1日(8時間)当労働報酬 (円)	150	360	470	610	670	670

米作七反歩の農家では一日働いて九九〇円に対し、二町二反の農家では同じ一日働いても一七三〇円の労働収入となっています。酪農においても、一頭より二頭、更に四頭五頭となると一日当りの労賃はズッと多くなっています。

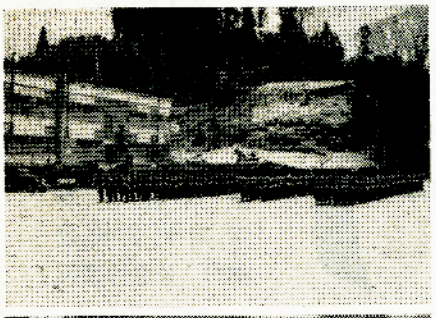
規模拡大の方法には次の様な方法があります。

一、山林原野を開墾して耕地または草地とする。

二、山林原野を開墾して桑園とする。

三、農家によっては農産物を販売する流通面まで手を伸すのも良いでしょう。野菜は直売所を持ち、畜産では枝肉加工をしてから販売し一軒で三千万円の粗収入を上げている農家の話しを聞いたことがあります。

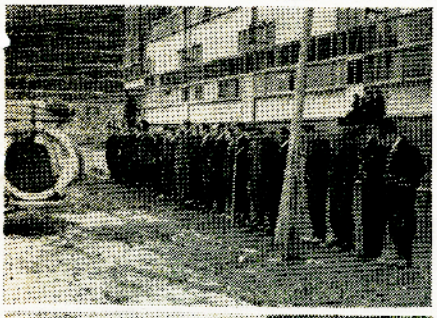
四、耕地を買う。その他などが考えられます。



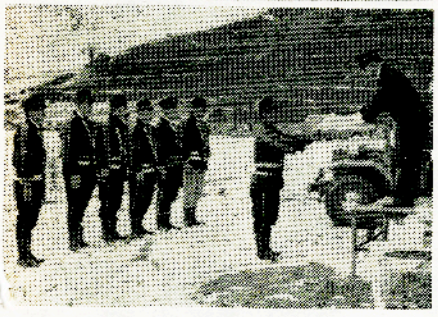
ことしの消防出初めは鮫小校庭に全団員参加して行なわれた。白雪をふんで整列する三百余名の威容！



通常点検で一人一人の健康士気、着装などを検閲した石田村長は、まことにたのもしい限りと講評。



この朝、風雪とんで零下八度。例年にない多数の来賓も外とうをぬいで表情をひきしめながら観閲。



席上、優良団員、無火災分団などを表彰。永年勤続者にはことしから初めて消防庁長官より銀盃が贈られた。

ネズミのいないおらが村

ネズミによる被害は、経済的には勿論衛生的にも極めて重大なことです。即ち穀類、衣類、住まいを荒らし更に赤痢などの伝染をさせたりするので、ネズミの駆除は真剣に取り組まねばなりません。

このために、村では全戸に強力殺鼠剤メリーネコ一号袋入を配りましたから皆さんの協力を願います。

使い方は、ネズミの通路とか穴の近くに三～五粒そのまま置くか、無造作に紙に包んで物かげにおいて下さい。田畑では巣の穴に入れるか、作物の近くにおいて一匹のこらず退治しましょう。

袋の注意をよんで下さい。

養蚕協業のお手本

遠ヶ竜養蚕協業組合では、先に山を開墾して四町歩の共同集団桑園を作り、県内から視察者がたえませんが、こんど更に軽量鉄骨とプラスライトの美しい壮蚕飼育室三〇坪と、貯桑上族室一五坪を建設して、県から補助をうけることになりました。

1月の人口と世帯

人口	7.856
男	3.898
女	3.958
世帯数	1.249

おめでた

十一月

一七日 大石草 芳賀 一美
一七日 大石草 芳賀 淳一
二二日 滝平 円井 和広
二三日 荻ノ沢 関根二三子
二三日 強滝 渡部 広
二五日 帆長 北条久美子
二六日 遠ヶ竜 森 しのぶ

十二月

一日 浅屋敷 鈴木 孝子
二日 大石草 芳賀美佐子
六日 余所内 関根 博幸
七日 馬場 鈴木 道夫
一一日 関口 蛭田 敏
一二日 折戸 阿久津純子
一六日 寅卯平 舟木 幸男
一六日 余所内 関根 正雄

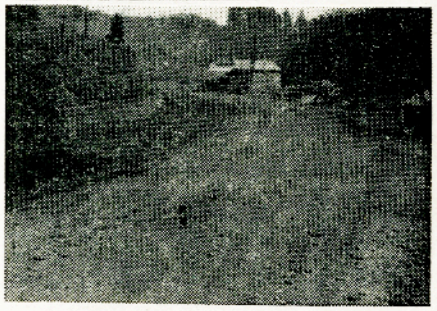
おくやみ

十二月

四日 田苗下 芳賀 富次
六日 関ノ上 中川西八郎
八日 虹ケ沢 石井重四郎
一一日 西之沢 芳賀 利一
二四日 摺合 芳賀 ハナ
二八日 大石草 芳賀 淳一
二八日 大石草 芳賀 一美



数ある集会のうちで成人式ほど美しいものはない。晴着自慢の声もあるが若い人の心もよくわかる。



魔のカーブといわれ多くのギセイ者を出した前沼のカーブも、県と地主青戸実さんの厚意で改良された。



農村公衆電話がつぎつぎに設置され、不便な山村生活もだんだん便利になつていく。ウレシソウですねェ。



村で初めての全額国費で行なわれる公共事業道路改良工事、山をうち抜いて進められる丸谷地の大工事！

村政のうみ (40)

行政責任の明確化

村長　石田卯子八

毎年町村が予算編成に入る頃になると、法令外負担金のことが問題になります。

村の一般会計から出る負担金、補助金、交付金、寄付金の類はなかなか容易でない額に上ります。

前年度決算でも総額の実質一〇％をこえるありさまですから軽視はできません。

これらの内容は県段階の協会、連合会などに支出する会費的な負担金から、県に直接納入する分担金、郡段階の諸機関、諸団体に支出するもの、村内各種団体に補助するものなど多種多様にわたります。

県町村会も地方課などと協議して、毎年支出の対象となる団体や機関を制限規制していますが、今年は県段階で六三団体に限りました。

郡段階の審査はまだやつていませんが、水増し予算をもち込んで、町村費の支出を要請する団体などが多くなる傾向にあることは遺憾であります。

ここで原則的な考え方としては、社教団体であると産業団体であるとを問わず、およそ自主的団体である以上は、それぞれ自主財源を確立して本来の事業を行なうことを建前とすべきでありますが、それらの諸団体の行なう事業のうち、地方公共団体の当然行なうべき事業を代行する部分については、交付金や補助金を当然考慮すべきでありましょう。

また自主財源の乏しい団体で、地方公共団体が育成強化の責任を負うものについてはその財政規模に応じて、財務援助を行なうことを考えるべきであると思います。

それとともに町村自らの責任において行なうべきものが、一部部落や個人に転嫁されているものもないばかりではないが、これらは一定の基準にもとづいて、町村自らが行なう建前であるべきことは当然であります。

またその基準をこえる濃密行政の部分については、受益者分担の形で収納されることが妥当でありましょう。

このようにして住民の血税が不当に傾斜することなく、均こうを得た正しさで行使され、行政責任が筋を通していくように努力しなければならないと考えるわけであります。

納税だより

納税はおくれず
　わすれず　今すぐに
村税を完納し
　住みよい村を作りましょう

大字別納税成績表　　1月1日現在

	固定資産税	村県民税	軽自動車税	保険税
	%	%	%	%
西野	89.1	96.7	97.7	90.2
西山野	91.0	97.0	95.2	90.8
中野	90.8	97.3	92.3	92.1
東野田	83.7	93.3	83.8	77.5
富瀬	81.8	85.1	82.6	75.2
渡野	96.7	99.1	91.4	94.1
青生	61.8	79.0	79.4	65.9
計	88.3	94.8	89.9	85.2

編集あとがき

○　監査委員の関根友安氏が一月十三日に亡くなられました。温厚な人柄と卓越した識見の持ち主であつただけに、その死は多くの人から惜しまれています。

○　ドドーンと、ハンターの五月です。野山に働いている人も沢山あります。事故を出さないようお互に注意しましょう。

○　広報紙は皆さんの利用を待つています。めずらしいことや、是非村人に知らせたいことをどうぞ総務係まで。……

村の話題

大低温

一月二十五日早朝の冷え込みは、村の話題をにぎわせましたが、役場前の気象観測所では零下一六、七度と近年にない大低温を記録しました。

ラジオ農業学校
テキスト予約 申込受付中

目と耳で新しい農業を学ぼう……。毎朝六時三十分から二十分間、NHK第二から放送されているラジオ農業学校のテキストの申込みを受付中です。内容は稲作・果樹・畜産・経営・くらし・その他養蚕・林業・園芸・気象・農機具など、明日からの経営にすぐに役立つ内容です。

申込みは、村青年研修所、経済土木係、または農業改良推進員までお申込み下さい。

新しい選管委員

今年は選挙のあたり年とも云われますが、この重要な選挙を管理する委員を一月の議会で選挙されました。二月二日より次の方々に変ります。

選挙管理委員会

委員　須藤　英一　再
　　矢吹　甫　再
　　[illegible]　一郎　新
　　水野　馨　新
補充員　岡部千代喜　再
　　長井　久　再
　　森　享　新
　　蛭田　正　新

県青年問題研究大会に参加して

一月十九日より三日間、福島市教育会館、婦人会館で約四〇〇名（鮫川五名）参加して開かれた。

内容は、講演、演劇、交歓会、分科会等でした。

所感　この大会は山崎先生の講演で幕があけられた。「一度はどん底に落ちた青年活動も、どうにか立上りの方向で青年がガッチリと肩を組んで平和な明るい世界を作るために活躍されることを期待する」と話され、私ども〝やるぞ〟という気持を強くして会場を婦人会館に変つた。

分科会　地方選挙と私達の暮し、共同学習と共同化　※

構造改善を見る

双葉郡川内村　(二)

前近代意識から脱却

川内村の構造改善を語る前に、その基盤である村の性格に、もう少しふれてみよう。

この村は周囲の町村からかけ離れた山村で、富岡や小野町に出るのに二八Kもある。

いわば山の中の孤島ともいえるところで、昔は随分不便な所であつたらしい。

こうした環境では、とかく排他的傾向が強く、部落や対人関係に対立意識が働きやすいから、お互に脚を引つぱりあつて人材が育たない。

ところが現在の川内村はどうか。そのような前近代的なものから既に脱け出しているように感じられた。

移入人事と育英制度

河原村長を幾度か選んで思うままにその手腕を発揮させている。役場の首脳部人事も助役、課長など何れも県から引き抜いてきて、県政の恵みは余すところなく吸収している。このような移入人事について非難がましい声が出ていないということも、山村としてはめずらしい。

この村でも一時は学校の先生を頼むのに苦労をして、育英制度を設け、その豊かな財力にものをいわせ、大学生には月三千円づつ送つているという。

しかし、この卒業生を村に帰らせることはなかなかむずかしく、この意味ではこの制度は失敗ともいえるが、また村の俊才に学資を与えて、広く社会有用の人材に育てたとすれば成功ともいわれよう。

誇るべきこの施設

村立産業高校は立派な新築校舎で、設備も相当のものであるが、生徒は女子ばかりでその数もすくないらしい。

高校は県立の富岡に出る者が多いため、町内に寮を建てて村の生徒を入れている。

村内小学校中学校はみな新築され、堂々たる施設を誇つている。

診療所も立派なもので、医師は一人であるが、職員は九人もおり、入院患者も数名あつた。この診療所はめずらしいことに黒字経営で一般村費の繰入は全然やつていない。

農協はミルクプラントをもち、酪農振興の主役を担当している。この村には任意組合の酪農団体や郡酪などの組織はなく、農協酪農部が、集乳から処理まで一切を担当し、市乳として出している。

またブルドーザーをもち、機械化センターの役割も果している。農協は農業者の営農にサービスをして、その所得を高めることを主眼としているから、経営の重点は利用事業にあるとしている。

（つづく）

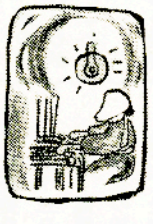
郷土の伝説　(12)

機織石のはなし

中井恒雄

昔のこと強滝にハタオリ石という変つた名前の石があつた。その頃強滝は昼でも暗くさみしい森でした。道も今より上にありました。

ある大水の晩でした。月もなく真暗な強滝の坂を馬を引いた人が通りますと、川の方でランプの明りが見え、大きな石の上では老婆がハタオリをしています。これは不思議と思いました。そして大水の晩にはきまつてその石の上で老婆がハタオリをしているのです。村中でたちまち評判になり通る人たびにきみわるくなり、弓矢で射ちますが何の変化もありません。



それである時、今の石井草の源太という人が、鉄の玉をつくり鉄砲で射ちました。すると明りはパッタリと消えハタオリ老婆の姿もきみような声と共になくなりました。

それは古だぬきの仕業だつたのでした。その晩からは大水が出ても老婆の姿は見られなくなりましたが、その後まもなく石井草の源太という人は病気になつてしまいました。

それで、それはハタオリ老婆のたたりだと称して、石井草では婆神様（ばがみさま）という神社をまつり、毎年月日を定めて供養する様になつたという。

又その後道路整備のためこわされたハタオリ石のたたりだと称する伝説も残つています。

（郷土史家）

※　の進め方、正しい恋愛と結婚を育てるため等、これら六分科会に別れて真剣に話し合いが行なわれた。夜は各地区自まんの歌や、おどりで深夜まで楽しみました。この雰囲気は我々が青年会でも作りたいと思う考えをいつそう強くしました。

全体会　各地区の青年も多くの問題に取りくんでいる。それが共通している事を見出しその問題をどのように掘り下げて行くか……。

我々は常に団結してたゆまない努力をすればどんな問題でも解決できると考えた。「差別のない豊かな生活を営むために」仲間よ！

最後までがんばろう。

（富田　青戸彦助）